

NZ ドル、利下げ継続で上値重い

- ◆豪ドル、月次 CPI と 4-6 月期民間設備投資に注目
- ◆NZ ドル、利下げ継続で上値が重い
- ◆ZAR、底堅さを維持しそう

予想レンジ

豪ドル円 93.00-96.50 円

南ア・ランド円 8.30-8.50 円

8 月 25 日週の展望

豪ドルは上値が重くなりそうだ。市場では 9 月の米連邦公開市場委員 (FOMC) での利下げを織り込みつつあるが、米国のインフレ懸念が高止まりしていることもあり、年後半の米連邦準備理事会 (FRB) の金融政策には不透明感がある。また、日銀は米国からの利上げ圧力を受けている状況。その中で、豪州、NZ はともに、利下げ継続の可能性が高く、対ドル、対円ともに上値の重しになっている。来週の豪州からのイベントは、26 日に 11-12 日に行われた豪準備銀行 (RBA) 理事会の議事要旨が公表される。ここ最近では理事会直後に発表される声明文と議事要旨の間では、大きな差がなく、市場の反応は限られているが、更に利下げに対して積極的な発言が明らかになった場合は豪ドル売りを促しそうだ。経済指標では 27 日の 7 月消費者物価指数 (CPI)、28 日の 4-6 月期民間設備投資に注目が集まる。月次の CPI は四半期 CPI バスケットの 6 割から 7 割程度しか含まれていないこともあり、RBA の注目度は低いとされているが、市場が過度に反応することもあるので注意が必要だ。また、民間設備投資は 9 月 3 日に発表予定の国内総生産 (GDP) の構成要素の一つとなることから注目したい。

ニュージーランド (NZ) ドルは軟調継続を予想している。今週行われた NZ 準備銀行 (RBNZ) の金融政策委員会 (MPC) では、再び政策金利の引き下げに舵を切った。声明文では「中期的なインフレ圧力が予想通りに緩和しつつあれば、金利をさらに引き下げる余地がある」とし、今後 2 回の 25bp の公式現金金利 (OCR) 引き下げの可能性を示唆した。OCR は昨年 8 月の 5.50% から既に 3.00% へと引き下げられてきているが、他国よりも利下げが継続される可能性が高く、NZ ドルは上値が重いだろう。なお、来週は 25 日に発表される 4-6 月期の小売売上高に注目している。

南アフリカ・ランド (ZAR) は底堅さを維持しそうだ。南ア準備銀行 (SARB) は前回の MPC でインフレ目標をこれまでの 4.5% から 3.0% へと引き下げる方針を示した。これに対して与党アフリカ民族会議 (ANC) は、支持基盤である労働組合からの圧力もあり、SARB 独断の方針変更には賛成していない。インフレ目標の変更は財務相の認可が必要とされているものの、南アは中銀の独立性が確保されている。よって、実質金利の高止まりとともに、今後 SARB は利下げを継続するのが難しくなることが ZAR の支えになるだろう。なお、来週の経済指標では、28 日に 7 月卸売物価指数 (PPI)、29 日には 7 月貿易収支が発表される。

8 月 18 日週の回顧

豪ドルは弱含み。米株に調整の売りが入ったことで、リスク回避に敏感な豪ドルの上値が抑えられた。また、NZ ドルが急落したことも重しとなった。なお、NZ ドルは、RBNZ の声明が市場予想よりもハト派となったことで急落。対ドルでは 4 月超ぶりとなる 0.58 ドル前半まで下がったほか、対円でも一時 2 カ月超ぶりとなる 85 円台まで下落した。ZAR は買いが一服。ただ、対ドル、対円ともに狭いレンジでの取引に終始した。(了)